

- 2~3 スマホ決済アプリの拡大/熱中症の予防/カンピロバクター食中毒に注意/新型コロナワクチン など
- 4~6 暮らしのガイド、施設のイベント
- 7~8 区版



◀ 広報紙がスマホで読めます(10言語対応)



30周年

気象と科学の博物館

江波山気象館

日本初の気象をテーマとした博物館、江波山気象館が、今年30周年を迎えました。
 〒730-0177 広島市中区上八丁堀の合同庁舎に移転

旧広島地方気象台

平成4年に開館し、今年30周年を迎えた江波山気象館。元は、日々の天気予報や災害情報を伝える広島地方気象台*の庁舎でした。 ※昭和62年に中区上八丁堀の合同庁舎に移転

天気のことならお任せ

現在も独自に気象観測を行い、市内の気象予報をしています。



同館主幹学芸員の脇阪さん(左写真)は「『いつもと違う空の写真が撮れたけど、どういう現象?』などの

問い合わせにも対応しています。気象に特化した博物館は珍しく、質問は全国各地から届くんですよ」と話します。

天気の仕組みを体感できる

同館では、豪雨や暴風を疑似体験したり、雷の実験を観察したりできま

す。また、サイエンスショーや自然観察会、気象や科学に関する企画展などの催しもあり、子どもはもちろん大人も興味深く楽しめます。

雲の中に入ってみたい! を叶えよう

常設展示の台風ボックス(メイン写真)は、ごく小さな水滴で人工的に雲を発生させるもの。目の前が白くなり、まるで本物の雲の中にいるような気分が味わえます。子どもの頃、「雲の中ってどんなだろう?」と思ったことのある人は、ぜひ体験してみてください。

レトロで優美な建物は 一見の価値あり

被爆建物でもある同館。爆風でゆがんだ窓枠や割れた窓ガラスの刺さった壁、当時の気象台の当番日誌などを公開し、平和の大切さを伝えています。

一方、昭和初期に建てられたモダンな造形は、近代化遺産としても高く評

価されています。結婚記念写真の撮影場所としても人気です。



◀ 気象台の頃の受付窓のステンドグラス



▲ 観測塔へ上がる片持ち階段



▼ 気象台が使っていた観測装置などの展示

30周年企画展 「あしたの天気は はれ? くもり? あめ?」 - 野坂勇作とお天気の世界 -

7月30日(土)~8月28日(日)
 気象をテーマにした科学絵本の原画と、描かれた気象についての科学展示 など

▲ 『にゅうどうぐも』より(原画)

この記事は、主に右記SDGsのゴールの達成に役立つものです。
 [SDGs...持続可能な開発目標]



〒730-0177 広島市中区江波南一丁目40-1
 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
 大人100円、高校生相当年齢・シニア(年齢を確認できるものを持参)50円、

中学生以下無料
 〒25台(江波山公園の利用者共用)
 月曜日(祝・休日と重なった場合は開館、直後の平日が休館)、年末年始など。詳しくはホームページ(右記コード)で確認を

